11月１日は『おかやま教育の日』

平成26年度

頑張る学校応援事業

優 良 実 践 校 概 要

岡山県教育委員会

小学校

	学校名	校長名	児童 生徒数	取組等の概要
1	岡山市立高島小学校	西岡　清	975	【地域・家庭と連携した学力向上の取組】 基礎学力の定着、家庭での学習習慣や学習方法の改善を図るために、保護者や地域の人にメディアへの接触時間等について啓発するとともに、家庭ぐるみでメディアへの接触時間を少なくするメディアコントロールの取組を推進した。高島版連絡ノートを作成し、児童と保護者に家庭学習の仕方や自主学習の進め方等を伝えるとともに、平成21年度から放課後子ども教室を1週間に2回（年間約60回）実施し、子どもたちの放課後の学習を支援した。また、平素の授業においても、学び合いを大切にする、問題解決型の学習を取り入れるなど、「高島スタイル」（学習版）として基本的な学習準備や指導方法等について共通理解を図った。さらに「高島スタイル」（生徒指導版）として、生活のきまりを詳細にわたって共通理解して指導に当たっている。外遊びを通して子どもと担任とが心のつながりを深めていくことにも取り組んだ。 こうした取組が、家庭学習への理解や授業改善に向けて効果を発揮しており、子どもたちの家庭や学校での学習、生活の改善につながった。
2	岡山市立宇野小学校	河内　智美	883	【特別支援教育の視点を取り入れた生徒指導・学習指導の推進】 特別支援学級に在籍する児童だけでなく、通常学級在籍の児童に対しても、一人一人の課題や特性に合わせた指導や支援を図るために、人権教育・特別支援教育・生徒指導の視点を大切にした授業づくりを進め、特別支援教育コーディネーターや教育相談担当・生徒指導主事等が講師となり、具体的な指導・支援のあり方を継続的に研修してきた。また、生徒指導上の課題にも教職員が一致団結し、迅速かつ組織的に対処できるような体制を構築した。授業においては、新単元に入る前に関連した既習事項を復習したり、児童が見通しをもって学習に取り組めるような展開を工夫したりして、児童が学びに向かいやすいように努めた。また、総合的な学習の時間では、探究的な学習を行うことにより、自ら問いを考え、自分の意見を積極的に言えるような計画・授業展開を工夫した。 こうした取組により、支援を要する児童も徐々に落ち着いた雰囲気の中で学習に取り組める状況となってきた。また、全国・県学力調査の結果も大きく改善するなど、成果を上げた。
3	岡山市立小串小学校	難波　祝子	37	【保護者や地域と一体となった体験活動の充実による子どもたちの学びを深める教育活動の推進】 小規模校のため、児童が広い人間関係の中でコミュニケーション力を育んだり、学習活動に広がりや深まりをもたせたりすることが困難な環境にあることから、地元の自然を生かし、「海や地域の人と関わりながら、地域のために自分たちでできること」について、総合的な学習の時間を中心に、地域の里海や自然の中で体験活動（つぼ網・のりすき体験、海岸の清掃活動、アマモ学習）に取り組んだ。また、学校全体でESDの視点から教育活動を見直し、特色ある取組を展開した。平成24年度からは、沿岸部と山間部の学校の特徴を生かした取組を通した交流を西粟倉小学校と実施している。 こうした取組により、児童は、目的意識をもって主体的に体験学習に取り組み、自分の思いや意見を積極的に発表するとともに、振り返りを通して体験したことを整理したり他教科と関連させたりして学びを深めることなどができるようになった。また、地域に愛着をもち、その一員として、地域のために役立つことを考え、活動できるようになってきた。

	学校名	校長名	児童 生徒数	取組等の概要
4	倉敷市立倉敷西小学校	三崎　伸一郎	302	【豊かな体験活動を通して、「やる気」と「豊かな心」を育てる取組】 学校全体の落ち着きに課題が見られ、学習意欲の二極化の状況があったため、学校生活において、自己存在感や自己実現の喜びを味わうことができる学習活動を数多く設定し、数年間にわたって地道な取組を継続してきた。清掃奉仕活動、あいさつ運動、ふれあい体験活動、さわやかコーラス、アルミ缶集め、エコキャップ運動等、各学年の発達段階に応じた様々な体験活動を教育課程に組み込むとともに、活動後に行う振り返りの学習に書く活動を取り入れるなど、一つ一つの活動を緻密に計画し、教職員が一丸となって教育活動の充実を図ってきた。 こうした取組により、子どもがやる気をもって様々な活動に主体的に取り組むことができるようになり、学校は落ち着いた学習環境となりつつある。また、全国学力調査では、すべての教科で全国平均を上回るなど、成果を上げた。
5	倉敷市立中洲小学校	薬師寺　重利	806	【言語活動の充実の取組】 授業はもとより、生活全般において、自分の思いや考えを友達などに伝えることに苦手意識をもつ児童が多く、全国学力調査の「活用」問題にも課題があったことから、「なかすよいこスタンダード」を作成・配付し、基本的な学習習慣の定着を図り、落ち着いた学習環境づくりに取り組むとともに、各学年に応じた授業や家庭学習の進め方を全校あげて同一歩調で取り組んだ。また、自分の思いや考えを持ち、伝え合う力を育てるために、特に、国語科において、めあてや発問を工夫した授業研究に、教職員が一丸となって取り組んだ。県教委作成の「読解力テスト」や「学習到達度テスト」を積極的に活用し、基礎・基本の充実も図った。 こうした取組により、学校行事など学校生活全般において、自分の思いや考えをはっきり相手に伝えようとする児童が増えてきた。また、全国学力調査では、すべての教科で全国平均を上回るなど、成果を上げた。
6	倉敷市立第一福田小学校	有森　修	642	【教職員の協働と家庭・地域との連携による生活力・基礎学力の向上を目指した取組】 学校での学習規律や家庭での学習習慣に課題があり、生徒指導上の課題もあったことから、学習規律の徹底、生活リズムづくり強化週間の設定、計算タイムや放課後算数教室の実施、問題解決力とコミュニケーション力の育成を目指した授業づくり等、児童一人一人の学力・生活力を高める取組を、教職員が一丸となり、家庭と連携しながら進めた。また、特に、あいさつと靴揃えを全校で徹底して取り組んだ。 こうした取組により、児童が徐々に集中して学習に取り組むようになり、落ち着いた学習・生活環境が整うなど成果を上げた。また、教職員に児童としっかり向き合う姿勢や、生活力・基礎学力の向上を図ろうとする意識の高まりが見られた。
7	津山市立院庄小学校	金田　司	183	【あいさつの励行や身の回りの整頓等を重視した、きめ細かい生徒指導の徹底】 生徒指導上の課題があったことから、学校・保護者・地域が一体となり、登校指導や学習支援ボランティアなどの様々な取組を実施するとともに、校長のリーダーシップのもと、学校の教育目標を明確にし、教職員の組織力と教育実践に対する意識の向上を図る学校経営を進めたことで、校内組織が一枚岩となり、教職員がそれぞれの職務に誇りを持ち、意欲的に教育活動に取り組んだ。特に「職員室の入室の仕方」の指導や「あいさつ」の励行、「靴揃え」の徹底、「黙々そうじの木曜日」等、生徒指導に重点化し、徹底した取組を行った。 こうした取組が、様々な生活・学習の場面に好影響を与えており、全国学力調査でも大きく改善が見られるなど、学力向上にも成果を上げた。また、児童は大変落ち着き、どの学年・学級でも、規律が徹底され、児童のやる気、自信を感じることができるようになった。

	学校名	校長名	児童 生徒数	取組等の概要
8	笠岡市立大井小学校	妹尾　和正	256	【学力向上に向けた、凡事徹底による日常授業の改善】 学力調査の結果で、基礎学力に課題のある児童が多いことから、「学び方5（ファイブ）」に基づき、学習規律の徹底と、ICT活用による「わかる・できる」授業により、日常授業の改善を図った。また、授業改善を校内全体で検討・共有し、経験豊富な教員が若い教員をサポートする体制を整え、学校における授業力の向上を図った。また、公民館や地域人材の協力のもと、「いきいき大井っ子ポイントラリー」を行い、地域の様々な活動に関わることで地域に学習活動の支援体制を作る取組を進めた。 こうした取組により、県学力調査では、すべての教科で改善が見られ、勉強がよく分かると回答した児童も増加するなど成果が見られた。
9	総社市立阿曽小学校	山内　良子	130	【学習規律の徹底から始める学力向上の取組】 基礎基本の定着とともに、落ち着いた環境づくりが喫緊の課題であったことから、児童が集中して学習に取り組むことができるように、授業中の机上の整頓や話の聞き方、学習の準備等に関わる学習規律を各学年の発達段階に合わせて設定した。また、研究主任がリーダーシップを発揮し、教務主任や管理職の適切なフォローのもと、担任同士で協議しながら身に付けさせたい学習規律を決めた。学習規律を指導する際、教員が一方的に指導するのではなく、児童に趣旨を丁寧に説明し、納得させてから取り組ませるとともに、児童の自主性も尊重した。研究授業では、学力調査結果から導き出された課題を取り上げて、その解決のための指導法の工夫を行った。また、ICTを活用し、分かりやすい授業に心がけ、「分かった」という充実感を落ち着いた学習環境づくりにつなげていく取組を進めた。 こうした取組により、特に、高学年児童の落ち着きが顕著となり、学習規律の徹底が図られ、学習意欲も向上した。また、全国・県学力調査でも大きく改善するなど、成果を上げた。
10	高梁市立高梁小学校	三村　秀樹	362	【学力・学習状況改善プランに基づく学力向上の取組】 平成24年度からの「学力をつける」取組の中で、特に算数科の弱みが明らかとなったことから、授業改善月間を設定し、中学校での協同学習につながる学び合いを取り入れた授業や、市全体に呼びかけての公開授業を実施した。また、毎日家庭学習時間のチェックを行い、月末に結果のデータを家庭に伝えるなど、家庭と連携した家庭学習に取り組んだ。「高小スタンダード」を作成し、みんなで守る授業の約束を徹底することで、全教職員が同じベクトルで指導を行った。また、毎年改善を重ね、現在バージョン4となっている。 こうした取組により、教職員のスキルアップや共通した指導が図られ、全国学力調査において成果を上げた。また、家庭との連携により、家庭学習時間が確保され、テレビの視聴時間が短くなった。
11	瀬戸内市立国府小学校	大谷　正	284	【落ち着いた学校環境の整備の取組】 生徒指導上の課題を抱える児童が多く、問題行動が発生するなど、落ち着いた学習環境の確保に課題があった。こうした課題を受け、平成23年度から、色々（カラフル）な特技を持った色々（カラフル）な個性の大人が学校の応援団として、「見守り活動」「学習支援」「環境整備」を中心にボランティア活動を実施する学校支援地域本部事業に取り組むとともに、カラフル子ども隊も組織し、朝・昼・下校前にボランティア活動を実施してきた。また、毎週木曜日の昼休みに、にこにこルームにおいて、教育相談を実施しており、児童は、自分の相談しやすい職員を選んで相談することができている。気になった児童については、必要に応じてケース会議を開催し、継続的に見守っている。学校支援地域本部事業を核として、保護者や地域を巻き込み、連携協力のできる体制を構築した。 こうした取組により、どの学級も落ち着いた学習環境を確保でき、また、カラフル子ども隊の活動が表彰されるなど、成果を上げた。

	学校名	校長名	児童 生徒数	取組等の概要
12	赤磐市立山陽西小学校	中西　伸司	251	【教職員の感性と連動性の発揮により、学校の荒れを沈静化させ、学力向上を図る取組】 厳しい家庭環境から心が安定していない児童が多く、数年前までは問題行動が多発し、頻繁に学級崩壊を繰り返すなどの状況が続いていた。そこで、校長の強いリーダーシップのもと、教職員全体が見逃さず、ひるまず、集団生活をする上で最も基本的な「あ・い・ず（「危ないこと・意地悪なことやいじめ・ずるいこと」は絶対に許さない）」を徹底して指導するとともに、「担任心得十か条」のもと、徹底した真摯な指導を行った。また、ＰＴＡ役員による校内巡視や、学生・地域ボランティアによる学習支援等で、隙間のない体制をつくり、児童への声かけを行った。さらに「役割・期待・承認」による積極的な生徒指導により、自己肯定感を高めるとともに、学力向上の取組を進めた。宿題の提出という当たり前のことにも徹底して取り組んだ。 こうした取組により、問題行動が激減し、学級崩壊もなくなり、ほぼすべての学級で自習ができるなど、落ち着いた学校生活が取り戻された。宿題の提出率も約95％と激増するなど、成果が見られた。また、放課後の水泳や陸上練習にほぼ全ての上学年児童が参加できるようにもなった。
13	赤磐市立石相小学校	金光　一雄	109	【特別支援教育の観点を取り入れた授業づくりや学級づくりの取組】 家庭基盤がなかなか安定しづらい背景にある児童や発達障害等の特別な支援を必要とする児童が多く在籍するなどの状況があり、全教職員が各地各種の研修に手分けして参加し、研修を積み重ね、指導力アップを図った。特別支援教育の観点を取り入れた授業づくりや学級づくりに取り組み、校長の強いリーダーシップのもと、指導・支援に当たっての共通理解を図るとともに、教職員が相互に支え合いながら、クラスの児童の実態把握に努めた。また、どの児童にも分かりやすい授業にするためのICTの活用などを学校全体で進めた。 こうした取組により、登校が不安定であった児童の登校状態が安定したり、落ち着きのなかった児童が前向きに学習に取り組めるようになるなどの改善が見られ、全国学力調査では、すべての教科で全国平均を上回るなど、成果を上げた。
14	真庭市立落合小学校	髙橋　渉	169	【分かる喜びと達成感を共有できる授業づくりの取組】 学力や生活習慣の課題が見られたことから、児童一人一人の課題に応じた習熟度別指導や小小連携・小中連携による授業づくり、生活習慣づくりを行った。学びのスタンダード等を活用した授業実践、集団による学び合い、特別支援教育の視点を取り入れた授業など、分かる授業づくりに取り組んだ。週3回放課後補充学習を行い、類似問題や到達度確認テスト等を活用するなどの工夫を行った。 こうした取組により、全国学力調査では、すべての教科で全国平均を上回るなど、成果を上げた。また、規範意識の向上や家庭での生活習慣の改善にも成果が見られた。
15	浅口市立金光小学校	佐々野　信治	341	【学校全体の徹底した取組と、家庭・地域との連携による学力向上の取組】 学力において、言語事項の習得や活用力がやや不十分であり、それに加えて、高学年のコミュニケーション能力、平日のメディアに接する時間に課題があった。そこで、学力向上推進委員会において、学力調査結果の分析から課題を設定し、授業改善や学習規律の確立に徹底的に取り組んだ。タブレット端末を活用した授業や、特別活動の校内研究に取り組み、学力向上を支える「関心・意欲の育成」や「豊かな学級・学校づくり」を行った。また、あこがれの人と触れ合う「大人プロジェクト」学習を行い、将来の夢や目標をもつ児童の育成を図った。学校保健委員会などでの保護者との連携や、学校支援ボランティアの活用を行い、児童の生活習慣や学習習慣の定着に努めるとともに、地域が学校を支える仕組みを確立した。 こうした取組により、将来の夢や目標をもつ児童が増え、意欲的に学習に取り組むようになるとともに、メディアとの関わりについて家庭との連携が進み、生活習慣が改善するなどの成果を上げた。

	学校名	校長名	児童 生徒数	取組等の概要
16	勝央町立勝間田小学校	森本　宏伸	399	【落ち着いた学校づくりを基盤とした学力向上の取組】 授業に集中できない児童や学習内容の定着に課題のある児童が多いなどの状況があり、教職員全員で目標を共有し、規範意識の高揚や学習・生活規律の指導を行った。特に、チャイム着席、無言清掃等に重点的に取り組んだ。また、居場所づくりやHyper－QUによる客観的な児童理解により、人間関係づくりを推進した。朝学習では過去の調査結果をもとに下学年の内容の振り返り学習や、PTAとの連携では、家庭学習時間の確保に向けた取組を実施した。また、放課後の補充学習では、県教委作成の到達度確認テストを活用し、担任以外の教員も指導に当たった。 こうした取組により、児童は落ち着いた学校生活を送ることができるようになり、不登校も半減した。また、全国学力調査では、すべての教科で全国平均を上回るなど、成果を上げた。
17	奈義町立奈義小学校	岡田　健治	280	【授業改善による主体的な学習態度の育成と、補充学習等による基礎基本的な学習の充実の取組】 自尊感情が低く、自信をもって主体的に学習に参加することに課題があったことから、校内研修において、外部講師を招聘し、自力解決の時間を保障し、自分の考えをもち、説明し合う場面がある授業づくりを目指した授業改善に取り組んだ。主体性を育成するために、学習規律の整った学習集団づくり、言語活動の充実、学習意欲の育成、基礎基本的な学習内容の指導の徹底等の「授業の基盤づくり」を大切にしてきた。さらに、若手教員等が自主的な校内授業研究サークルを実施し、研鑽に励んだ。また、家庭学習の手引きの配布等により、家庭学習習慣の見直しを行ったり、朝学習や放課後学習、夏季休業中の補充学習等を実施したりするとともに、学校支援ボランティアを活用した、授業支援、読み聞かせや地域学習等を実施した。 こうした取組により、家庭学習習慣が改善され、全国学力調査では、すべての教科で全国平均を上回るなど、成果を上げた。
18	美咲町立美咲中央小学校	片山　一生	191	【繰り返し学習と定着度分析を活かした徹底した補充学習の取組】 学習内容の定着に課題があったことから、校長のリーダーシップのもと、全教職員がそれぞれの立場や役割を果たしながら組織全体で学力向上の取組を推進した。補充学習の時間を確実に確保するため、朝学習、昼読書、放課後学習などを一日の時程表に位置付け、確実に実施するとともに、過去の調査問題や学習到達度確認テストなどの有効活用に向け、テストコーナーを常設したり、個人カルテを作成し、誤答分析や理解度分析などを踏まえた授業改善を行ったりした。また、6年生に対し、土、日曜日の特別課題として小学校学習内容振り返りプリントを活用し、定着度を確かめ、徹底した繰り返し学習と、丁寧な答え合わせや既習内容の確認指導を行った。 こうした取組により、県学力調査では、すべての教科で県平均を大きく上回るなど、成果を上げた。
19	吉備中央町立大和小学校	森寺　勝之	66	【学力向上と心身の健康づくりの推進】 小規模校でありながら、個別に配慮や指導を要する児童が多く、生活面・学習面の両面で課題があった。校長の強いリーダーシップのもとに、落ち着いた学習環境づくりを徹底して進めるとともに、学力調査結果の分析から課題を具体的に設定し、学校全体で授業改善に取り組んだ。特に、授業では、習得型学習の推進を図るとともに、授業外では、基礎基本の定着を図る朝学習と、活用型の学力を身に付ける補充学習という、二つの目的を明確に区別した内容で取り組んだ。また、家庭学習習慣の定着のため、学級懇談会において、家庭学習の手引きを配付するだけでなく活用の仕方まで詳細に説明し、保護者の理解のもと確実に習慣づけができるよう工夫した。さらに、家庭と学校、地域が一体となって地域連携として、公民館と連携した放課後学習教室・子ども教室を実施し、全児童100％の参加率となっている。また、親育ち応援学習プログラムに保護者が積極的に参加するとともに、歯の健康集会に保護者も参加し、昨年度は虫歯の治療率が100％となった。 こうした取組により、全学年において、落ち着いた授業づくりができており、学力調査、NRT検査において、すべての学年で向上が見られるなど成果を上げた。

中学校

	学校名	校長名	児童 生徒数	取組等の概要
1	岡山市立竜操中学校	正本　巧也	1,005	【質問紙調査(ASSESS)を活用した学級集団づくりの推進】 大規模校であるため、様々な個性をもつ生徒が相互に豊かな人間関係を構築し、学級や学校という集団への適応力を身に付けることが課題であったことから、教育相談とともに質問紙調査(ASSESS)により生徒の学校適応感の把握と分析を行うとともに、出席データ管理システムを活用して生徒の状態の把握に努めた。月に3日以上の欠席をしている生徒のASSESSの結果分析から、向社会的スキルの課題を明らかにし、コミュニケーション力を高める学級集団づくりに取り組んだ。また、めあての明示と振り返りの時間の確保、構造化(学習活動の時間配分、決まった流れ、1時間の見通し)を意識した授業づくり、課題解決、学び合いの場面の設定など、学習指導の充実を図るとともに、生徒会と教職員で協力し、月ごとに設定する目標・キーワードに基づいた「とこトン・プラン」を作成し、着席や授業準備等に学校全体で取り組んだ。 こうした取組により、教師はより確かな支援を行うことができ、生徒とのよりよい人間関係づくりが進み、それに伴って「学習的適応」も安定・向上する学級も出てきた。
2	岡山市立東山中学校	阿部　哲哉	344	【問題行動の未然防止、早期発見・早期対応のための生徒指導の推進】 生徒一人一人が、友達や教職員との信頼関係の中で、前向きで落ち着いた学校生活を送るために、生徒指導上の課題を解決することを目指して取組を続けてきた。生徒の欠席状況や保健室利用等の情報を共有し、どの教職員でもすぐに生徒・保護者の対応ができる体制を構築するとともに、毎朝、駐輪場や下駄箱で教職員が生徒を見守り、自転車整理や靴揃えなどに学校全体で徹底して取り組んだ。また、全生徒対象の教育相談や生活の振り返りの質問紙調査により、積極的に生徒理解に努めるとともに、関係機関・小学校との定期的な情報交換会の開催により指導の継続性を確保し、保護者や地域住民との積極的な交流を通して丁寧に思いを汲み取り、学校運営に生かした。 こうした取組により、校舎の内外は常に清掃が行き届き、廊下の掲示物や作品等も整備され、生徒の表情は明るく、学校満足度も高い。日々の教職員の一致団結した取組は、保護者や地域から厚い信頼を受けている。
3	倉敷市立玉島西中学校	市坡　よし子	454	【落ち着いた学校づくりを目指した取組】 不登校、いじめ、暴力行為等の課題が見られたことから、教職員が一丸となって、授業を大切にすることや落ち着いた学習環境を整えることに力を注ぐとともに、教職員と生徒との信頼関係を築くために、一人一人を大切にし、部活動の指導にも熱心に取り組んだ。また、「思考力・判断力・表現力の育成」を中心に、全教職員で課題を共有し、学校全体で確かな学力の習得に向け、授業改善に真摯に取り組んだ。PTAや地域の方々も協力的で、クリーン作戦や交流会等に積極的に参加している。 こうした取組により、授業規律を守り、一生懸命に授業に向かう生徒の姿や、意欲的に行事に取り組む姿が見られるようになり、落ち着いた学校環境が整った。また、学校行事への保護者や地域住民の参加が年々増えるなど、学校の応援団となっている。

	学校名	校長名	児童 生徒数	取組等の概要
4	高梁市立高梁中学校	吉川　昭	354	【落ち着いた学習環境づくりによる学力向上を目指した取組】 落ち着いた学習環境の確立と学力向上に課題があったことから、『瞳輝く学校』の実現をスローガンに掲げ、(1)日常生活における「凡事徹底」の推奨、(2)生徒会活動の充実、(3)協同学習の授業改革に重点的に取り組んだ。「進んであいさつする」「トイレのスリッパを揃える」といった当たり前のことを徹底する生徒指導や、自主性の育成を重視した生徒会活動や部活動の活性化に取り組むとともに、基本的生活習慣の定着を図るため生活習慣調査を行い、成果や課題を保護者と共有した。また、授業参観や合同研修会を行い、協同学習の研究を全校をあげて推進した。 こうした取組により、落ち着いた学習環境が確保されるとともに、委員会活動の活発化により学校行事の充実が図られるなど、活力ある学校づくりに成果を上げた。また、主体的に学習に取り組む生徒や積極的に友達と学び合う生徒の姿が多く見られるようになり、学力向上にも成果が見られた。
5	備前市立備前中学校	岡田　昌	406	【落ち着いた学習環境の確保に向けた取組】 問題行動が多発するなどの課題があったことから、校長の強いリーダーシップのもと、「備前中学校生徒指導基本方針」に基づき、全教職員が一貫した、ぶれない生徒指導を実践するとともに、「生徒指導基本マニュアル」を作成し、共通した指導を徹底して行った。また、Hyper－QUを実施し、分析結果に基づいた学級経営の改善を行った。学校支援地域本部事業を導入し、地域の教育力を積極的に活用するとともに、希望する生徒が誰でも参加できる「人権委員会」を実施し、生徒の自主活動も推進した。 こうした取組により、いじめの年度内の解消率100%、Hyper－QUでの生活満足群3%上昇、保護者アンケート(学校は一人一人を大切にしている93.3%、生徒は学校へ行くことを嫌がらず登校している97.7%)など、落ち着いた学習環境が確保でき、それに伴い、全国学力調査でも、すべての教科で全国平均を上回るなど、大きな成果を上げた。
6	赤磐市立高陽中学校	平田　俊治	325	【学校を取り巻く環境改善・授業改善と生徒意識の向上による学校改革】 家庭環境の格差が大きく、生徒指導上も学力面でも厳しい状況があったことから、学校支援地域本部事業の活用による高陽中学校支援実行委員会を設立し、学習支援や読み聞かせ、環境整備活動を行った。また、地域運営協議会を設立し、中学校区で望まれる生徒像を地域とともに策定した。授業改革推進リーダーの活用による授業改革5か条の徹底や、特別支援教育の視点を生かした授業の展開を推進し、携帯持込追放推進委員会や心を磨くトイレ掃除実行委員会、暴言暴力根絶委員会、遅刻撲滅委員会等、特色ある生徒の活動を行った。 校長のリーダーシップのもと、地域とつながるプロジェクトを推進した結果、独自アンケートで学校規律の向上が14.5%上昇、学校生活満足度が8.6%上昇するなど学校生活に肯定的な生徒が増えた。また、「高陽中の生徒でよかった」と答えた生徒も増加した。学校が落ち着きを取り戻し、問題行動の件数も激減するなど、大きな改善が見られた。
7	真庭市立落合中学校	髙田　雅夫	388	【校訓「明るく・楽しく・美しく」の具現化に向けた取組】 学力に課題のある生徒が多い状況があったが、あいさつ運動や清掃活動の推進、朝読書の継続、生徒一人一人に目を向けた生徒指導の徹底等による落ち着いた学習環境づくりの取組を充実した。その中で授業改善、放課後質問教室などに学校全体で取り組み、基礎学力の定着、学習意欲の高揚の取組を推進した。積極的に地域に学力状況を発信し、地域の力を活用した放課後学習会を開始したり、学区の小学校と連携し、家庭での生活習慣の改善にプラスマイナス30運動(テレビ、スマホ、ゲームを30分マイナス、学習、読書などを30分プラス)を提唱し取り組んだ。 こうした取組により、全国学力調査では、すべての教科で全国平均を上回るなど改善が見られるとともに、テレビ等の視聴時間は減り、家庭学習時間が増えるなどの成果も上げた。

	学校名	校長名	児童 生徒数	取組等の概要
8	美作市立美作中学校	西村　睦美	318	【トライアングルみまさかを基軸とした生徒指導・授業改善の取組】 規範意識や暴力行為等、生徒指導上の大きな課題があったことから、校長の強く明確なリーダーシップのもとに、中学校区内の2小学校と「トライアングルみまさか」として、義務教育9年間を見通した教育（生活規律・学習規律・学力向上）に徹底して取り組んだ。また、学校・学年行事を生徒の力が発揮できる場として位置づけ、生徒会活動や部活動等も含めて、生徒が主体的に創り上げる活動を充実させた。“チームみまさか”としての一体感を基盤に、危機に対する感性を磨き、安全・安心の学校づくりを実現した。 校長の明確なビジョンのもとに生徒指導を充実させ、地域に誇れる落ち着いた学校となり、不登校生徒が35%減少した。また、授業改善の推進により、課題（書く力、基礎計算の力）を明確にし、地道に取り組んだ結果、全国学力調査では、すべての教科で全国平均を上回るなど、着実に生徒の力を伸ばすことができた。

中学校区

	中学校区・学校名		校長名	児童生徒数	取組等の概要
1	岡輝中学校区	岡山市立岡輝中学校	片山　安基夫	309	【地域協働学校、協同学習の取組による生徒指導・学習指導の推進】 中学校区内で「目指す子ども像」を共有し、落ち着いた学校生活ができるよう基礎学力を定着させることや、生徒指導上の課題に積極的に対応している。中学校区を一つの地域と考え、地域協働学校の指定やシニアスクールの開設など、学校・家庭・地域社会が一体となって、学校運営の質の向上に継続的に取り組んだ。「保・幼・小・中連携」の実践を継続的に行うとともに、協同学習にも取り組んだ。また、学校運営協議会への校園長の参加など、中学校区内の私立保育園・幼稚園や公立高等学校とも連携を図った。「イメージアップ岡輝」や「つながれ岡輝！音楽と踊りのフェスティバル」など中学校区をあげての行事も多数実施した。 こうした取組により、中学校区の連携・一貫した取組が進み、開かれた学校づくりが行われ、シニアスクールや学校運営協議会など、地域の方が学校運営や行事に積極的に関わる仕組みができ、地域全体で子どもたちを育てるという意識が浸透した。教職員にも子どもたちの様子を15年間で見取ろうとする姿勢ができ、常に粘り強く子どもたちに寄り添いながら指導することで、各学校では児童生徒が落ち着いた状態で学校生活を送れるようになってきた。
		岡山市立岡南小学校	西森　治行	459	
		岡山市立清輝小学校	河本　明	106	
2	京山中学校区	岡山市立京山中学校	徳山　順子	821	【授業改善と地域学習を通じた思考力・判断力・表現力を育成する教育活動の推進】 児童生徒の探求的な活動の質の向上を課題ととらえ、共に生きるということをキーワードにESDに取り組んだ。公民館を中心に、全国でも有数のESD先進地域であり、保護者や地域の学校教育への期待も大きいことから、中学校区で共通の研究主題を設定し、各教科の授業改善を進め、自ら課題を持ち、その課題を解決していく授業スタイルを確立することで、子どもたちの思考力・判断力・表現力を育んだ。また、総合的な学習の時間を核として、ESDの視点で各教科・領域の学習を結びつけ、「ESDカレンダー」や「ESDグランドデザイン」を作成した。京山公民館を中心にした地域の取組に参加することで、地域のよさを知り、地域の課題を解決していこうとする姿勢を育んだ。 こうした取組により、児童生徒は課題解決に取り組むための方法や道筋を理解した上で、自ら考え、判断し、表現する力を身に付けた。また、児童生徒が市長に提言した「緑と水の道構想」が実現したり、「バス表示の英語併記」をバス会社等に働きかけ実現したりするなど、実際に課題を解決に導くなどの成果を上げた。
		岡山市立伊島小学校	青山　順子	789	
		岡山市立津島小学校	菅野　和良	801	
3	里庄中学校区	里庄町立里庄中学校	三宅　浩一	309	【小中連携による落ち着いた学習環境づくりと学習意欲を高めるための授業改善の取組】 人間関係力やコミュニケーション力に課題があり、家庭でのメディアとの接し方や学習習慣にも課題があったことから、小中学校が連携して指導の重点を決め、全教職員で指導に当たった。特に、子どもを的確に認め続け、主体性を伸ばすことを大切にした。落ち着いた集団づくりを進めるために、あいさつや掃除、履物揃えや話の聴き方など生活規律や学習規律の徹底を図った。また、確かな学力の向上に向け、町学力向上重点目標である「基礎・基本の徹底」「論理的に書く力の育成」「家庭学習の充実」に取り組むために、小中情報交換会の開催や、小中学校相互の授業参観や出前授業、体験活動、合同研修会を実施した。豊かな心・人間性の育成に向け、家庭・地域との連携、ふるさとへの郷土愛を育てる取組を行った。 こうした取組により、落ち着いた学校環境の中で問題行動が減少し、学力向上にも成果が見られた。
		里庄町立里庄東小学校	谷本　知之	247	
		里庄町立里庄西小学校	渡邉　一雅	369	